政変のカンボジアへ使節団派遣

第7次友愛東南アジア使節団

盛り沢山の内容と成果

復帰不安の沖縄を肌で感じる

あらゆる意味で重要な一九七〇年代に先がけて、本会では第七次友愛東南アジア使節団（団長＝尾形貿雄幹事長）を派遣した。時あたかもカンボジア政変後平静を取り戻すには時間の掛る時でもあり、激動する東南アジアにあって、日本の果す役割は非常に大きいといわなければならない。この中にあって、少しでも多くの青年がその実情を見聞し、その自覚が高められるとするならば、民間外交としての本使節団の使命は半ば達成されたといえよう。尾形幹事長を団長とする一行八名はつぶさにその実情を見、日本の役割を自覚し無事帰国した。

動乱の中にうつろな眼差しの子供たち

第七次友愛東南アジア使節団は、するには十分な感じであり、その意味では本事業に多大から期待が寄せられていた。

一行は、尾形貿雄幹事長を団長として、田中英健幹事（東京）斎藤孝昭（東京）鈴山敏和（石川）杉原美代太郎（愛知）伊藤智代（三重）白石順悦郎（島根）三木裕子（高知）の一行八名で、本年一月、本会の募集に応募の中から、常任幹事会の選考の結果、決定したものである。

本会では昭和三十年の第一次派遣より青年が海外に目を開く事の必要性とその中で体得する事に重点を置いて派遣事業をおこなって来た。

本会では、結成以来青年が目を海外に向け、国内の諸問題の解決に当る片わら、海外に青年を派遣することによって、海外事情を青年の目で捕え、その認識と、国際感覚の体得に努めて来ている。この観点から本会では特に東南アジアに注目し、昭和三十七年より使節団を派遣している。また、海外渡航が自由化されていない時代の事で、外務省、各国大使に民間外交の必要性を説き、その中で青年の役割を説き、本会独自の派遣となったものである。

当初は海外に行く事に意義があり、ML六三三便で全員元気に出発し、四月二十三日、NWO〇八便にて元気に帰国した。

今回の派遣の中に、政変後の力ンボジア訪問、マレーシアと民泊を取り入れ事、七二年遠望を前にした沖縄訪問を入れた事である。内容については二面の団員報告会に詳細に掲載されているが、シンガポールにおいては盛沢少年倶楽部連合総会の歓迎を受け次回からの交換の約束が取り付けられた大切であった。マレーシアにおいてはクアラルンプールにおいてMAYCCの会議には日本に留学していたシャリー嬢がMAYC事務局にて使節団のすべてを、コニー嬢は宿舎にて使節団のすべてをお世話し、事後の活動に生々と活動している事に本会の役割の重要性が認められ、マレーシアの国というのを肌で感じ、その生活の中から日本の平和さを痛感せざるを得なかった。タイにおいてはバンコックで市との交歓がなされ、いよいよカンボジアに入った。ビザの降りないまま、プノンペンに入ったが、長年の交歓の実績により力ンボジア側が特別に入国を許可。カンボジアの政変を反映して他の訪問国と違い、空港では銃を持った兵士が使節団を迎えるといった緊張したなかい気で、過去六回の使節団がバトカーを先導に市中パレードをして歓迎されたのと対象的だ。またRCSY（カンボジア王国社会主義青年団）を訪問懇談をし、一日も早く平和が訪れ、我々と真び友好関係を結ぶことを申し入れた。

台湾においてはYC反共救国団との交歓において、日本より訪中使節団が行っていた事もあり、国際間の動きを肌で感じた。

今回は特別に沖縄訪問を加えたが、地元の那覇支部（支部長＝崎山盛智吉）の受入れが万全であり普通の人では立入りが許可されぬ辜手納基地を視察し、一同その規模の大きさ、異様さに声も出ぬ程であった。

こうした使節団の巡回によって交歓の密接さを強め、新たに交歓の実りをあげ、沖縄返還前を控えての情勢の中で非常に多くの役割を果し、今後の本会での東南アジア問題、沖縄問題に対する取り組みなどに働きかけに大きく寄与する所があるとともに、民間使節団として十分その役割を果してきたことを注目に価する。（座談内容2面）

佐々木市長訪問記念日記版

昨年度、世界青少年交換協会主催、訪問日本青少年代表団々長として、オーストリーに派遣された本会の良き理解者、青森県三所川原市長佐々木栄造先生が、訪問日記を執筆、ウィーンおきドナウ（青森民友新聞社発行）を出版された。内容は行動日程をもとに、エピソード等を取り入れ、ユニークな先生の所見を軽妙な筆タッチで書かれている。

新年度方針決定

定期事業に重点置く

小牧支部

【小牧発】愛知県小牧支部（支部長＝永田広和君）では四十五年度第一回の例会（ドライブ旅行の模様を報告して来た。

第一回定例会　4／18（土）

今年度活動計画について検討した後と目常生活の諸問題について討論会を行なった。

年間行事計画については、新聞発行文集発行などの文書活動を定期的に続ける一方、施設慰問、観光地清掃などの奉仕ならに福祉活動を行い相互扶助の精神を養いまた時局講演会、映画会、討論会を適時開催し会員の教養を高めていく共に友愛の意味・普及に努める。その他、ドライブ、サマーキャンプ・ハイキング等のレクリエーションも支部活動のアクセントとなる様日常活動の中に、組み入れて行く等の骨子が決定された。

討論会は①酒店街の実態と調査②交通問題③現代社会における青少年の動向・以上三つの題目について討論を行なった。尚今後この討論会を何回か継続・一応の結論を出すことになった。

ドライブ旅行・4／12（日）

小牧支部では例年の行事として開催しており今回は国立公園伊勢志摩スカイラインをドライブした。会員は各自の乗用車に分乗し楽しい一日を過した。

〝若人の集い〟盛大に

登別支部青年に方向を

【登別発】北海道連登別支部（支部長＝本多隆一君）では四月十六日・午後六時から〝登別温泉パラダイス〟で〝若人の集い〟を開催した。

主旨は、地域社会の職域での人間関係の問題、その他多くの悩みにぶつかっている青年が、時代の変化にとのまま押し流されてしまうことなく悩みや問題を仲間と一緒に語り合い解決の糸口を見つけ出す場として行くことです。

六〇名余りの青年は、対話、フォークソングダンスに時間をわすれ楽しく過ごしました。当支部は過去一回この催しはあまりなかったので今後このような活動を積極的に展開してゆく予定です。

東京学生部

総会を開く

去る四月二十九日東京学生部（会員長＝合誠人君）では友愛本部において東京学生部総会を開催した。会員多数の参加により、今年度活動方針、事業内容、新執行部などを決議した。

活動方針として

○学生部を二本化し事業を行う

○新たな試みとしてサークル活動部を作り、会員増強を計る

又事業内容としては

○サマー、キャンプ等の各種行事

○研修会（理論国学習）

○奉仕活動

などが熱烈な討議の結果あげられた。

わずか半日の時間ではあったがユニークな学生部を作るべき事を各論いた。

なお新執行部は左記の通りである

委員長　荻原英二

副委員長　吉川敏

事務局長　堀田千恵子

会計　田川尋子

青年の船

募集要項

昭和四十五年度〝青年の船〟は来る二月よりの約六〇日間・東南アジアへ向け遠航されることになりその応募要項が発表され、この程本会では受付を開始した。

会員諸氏の積極的な応募を期待します。

要項は次のとうりです。

一、名称　昭和四十五年度「青年の船」（第四回）

二、主管　総理府

三、日程　昭和四十六年二月上旬～三月下旬（約五十一日間）

四、訪問国　東南アジア諸国（フィリピン・インドネシア・マレーシア・インド・シンガポール・中華民国）

五、活動　船内研修と寄港地における視察・見学および交歓

六、事前研修　国立青年の家（静岡県御殿場市）における事前研修（九月下旬～十月上旬）約一週間

七、資格　二〇歳～二六歳未満の男女で、友愛青年同志会々員であること

八、申込期日　六月一七日（木）

本部必着のこと

ドライブ旅行・4／12（日）

九、申込先　友愛青年同志会国際部宛

十、申込みされる方および詳細についての問い合わせは本部国際部及び都道府県庁領連絡下さい

直言

◇戦場をくぐる。こんな言葉は我々にとっては全くいいほど縁の無い事である。しかしながら、我々の同志が、同じアジア人が経験している戦禍の中を通って来たことによって、他人事で無いというのが実感である。平和な日本のイメージとほかけ離れていて、新聞、テレビ等のマスコミを通して知るだけのことであったものを、我々の同志の口から、じかに聞く、血肉感じが伝わってくるようであり、同じアジア人が苦しんでいる状態を我々はう理解すればいいか。◇戦争というと、我々が思い浮べることは、死、飢、乾き、疲労、顔面、諦め等と種々ある。同じ苦しみを、同じ過ちを、人類はなぜ繰り返さなければならないのだろうか。自らが信じる所が絶対であるとするからか。人間の協調からなのか。お互同志が共に理解し合い、納得し合っていない点においてのみそれを強要するしかない。双方が一段高い所のものを望もうとするならば、双方の納得する共通の基盤を作成する努力こそ、いま求められる最高の、最善の方法ではなかろうか。◇友愛使節団が政変後のカンボジアに派遣されて事はその意味で本会の主眼を置き話し合い、共通の基盤作成という事でその考えを民間として述べてきたのはグリーンヒットである。ある人達は、友愛運動は理想的でありいい事をしていると思う、けれども高い理想を追うだけでなく現実に根差す活動を考えなくてはならないと言う。あるいはあまりにも理想的すぎてついて行けないと言う。我々はその言葉を素直に聞く耳を持とう。◇我々は高い理想と、それを求め運動への情熱が高まると考えるのである。我々は常日頃の精進を続けてきたからこそ、今回のようなクリーンヒットも打てるのである本会の国際交流活動における絶対の地位といっても良かろう。そこで、国内問題については先輩の言葉を素直に聞き、国内の活動において、特に日常活動において着実になければなるまい。

和尚

ラジアルのなかのラジアル！

ラジアル・イレブン

スタート・ストップ・コーナリングは思いのまま！ 活動派向きのタイヤです

高速にもっとも安全

BS ブリヂストンタイヤ

友愛

発行所
友愛青年同志会
東京都文京区音羽1-7-1
電話 東京（941）2801
編集兼発行人 斎藤実
定価 1部 10円

綱領

一、われらは、祖国の繁栄にかがやく相互の人格を尊重し愛と信頼に満ちた友愛社会の実現に邁進する。

一、われらは、民主主義の健全なる発展と日本国民としての公共の福祉を増進する立場をとる。

一、われらは、祖国と世界の平和と人類の福祉に貢献するため、全世界の青年との提携を強化する。

一、われらは、祖国愛の精神に基き、より良い日本と、全世界の人類の幸福の建設に献身する。

第七次東南ア使節団報告懇談会

この目で見た東南ア
民間外交の果す役割大きい

第七次東南ア使節団は四月二十四日、官邸のさい花館において帰国後の印象の強いうちに皆の意見を織り交ぜ懇談会を持った。それぞれ、非常に貴重な体験を通じ得た生の意見であるとともに他からの影響の無い飾り気のない感じ方、注目が寄せられている。

司会＝辻谷勝弘団務局長
団長＝尾形智組幹事長
団員＝白名勝悦郎
杉原美代太郎
田中英健
斉藤隆陽
鈴山敏和
三木裕子
伊藤美智代（欠席）

◇

辻谷勝弘団務部長（司会）＝それでは、皆さんが訪問されました国々の印象と体験談をざっくばらんに語って頂きたいと思います。

まずシンガポールの印象なんか向うの労働省の方とも関係が、おありの様でしたが、その辺も含めてお願い致します。

尾形智組幹事長（派遣団々長）＝シンガポールには、人民協会という青年団体がありますが、従来から密接な関係がなく今回の目標では、社会情勢だけを見てくるという積りで行ったのであります。二年程前、アジア地域の青年指導者会議というのが、香港で開催されまして、私も日本代表として出席し、その時、シンガポール代表のゴーさん（シンガポール労働省の役人）と知りあいになりまして、個人的な親交を深めておりました。そこでゴーさん訪問致しました。交歓会の申し入れをしたところ、技術指導をやっている青年の方々が早速、歓迎会をやってくれました。そして、シンガポールと日本の交流を積極的に行ないたいと申し入れがありまして、私も考えそれには同感致しました。

司会＝どうですかその他に鈴山君

鈴山敏和団員＝団長も今言われましたが、シンガポールでの公式日程は組まれていなかったのですが、急遽歓迎を持ったことができまして、今後の交渉にとって、意義のあった訪問であったと思います。

◇

伊藤美智代（欠席）

◇

司会＝辻谷勝弘団務局長

団長＝尾形智組幹事長

団員＝白名勝悦郎

杉原美代太郎

田中英健

斉藤隆陽

鈴山敏和

三木裕子

伊藤美智代（欠席）

◇

辻谷勝弘団務部長（司会）＝それでは、皆さんが訪問されました国々の印象と体験談をざっくばらんに語って頂きたいと思います。

まずシンガポールの印象なんか向うの労働省の方とも関係が、おありの様でしたが、その辺も含めてお願い致します。

尾形智組幹事長（派遣団々長）＝シンガポールには、人民協会という青年団体がありますが、従来から密接な関係がなく今回の目標では、社会情勢だけを見てくるという積りで行ったのであります。二年程前、アジア地域の青年指導者会議というのが、香港で開催されまして、私も日本代表として出席し、その時、シンガポール代表のゴーさん（シンガポール労働省の役人）と知りあいになりまして、個人的な親交を深めておりました。そこでゴーさん訪問致しました。交歓会の申し入れをしたところ、技術指導をやっている青年の方々が早速、歓迎会をやってくれました。そして、シンガポールと日本の交流を積極的に行ないたいと申し入れがありまして、私も考えそれには同感致しました。

司会＝どうですかその他に鈴山君

鈴山敏和団員＝団長も今言われましたが、シンガポールでの公式日程は組まれていなかったのですが、急遽歓迎会を持ったことができまして、今後の交渉にとって、意義のあった訪問であったと思います。

◇

司会＝辻谷勝弘団務局長

団長＝尾形智組幹事長

団員＝白名勝悦郎

杉原美代太郎

田中英健

斉藤隆陽

鈴山敏和

三木裕子

伊藤美智代（欠席）

◇

辻谷勝弘団務部長（司会）＝それでは、皆さんが訪問されました国々の印象と体験談をざっくばらんに語って頂きたいと思います。

まずシンガポールの印象なんか向うの労働省の方とも関係が、おありの様でしたが、その辺も含めてお願い致します。

尾形智組幹事長（派遣団々長）＝シンガポールには、人民協会という青年団体がありますが、従来から密接な関係がなく今回の目標では、社会情勢だけを見てくるという積りで行ったのであります。二年程前、アジア地域の青年指導者会議というのが、香港で開催されまして、私も日本代表として出席し、その時、シンガポール代表のゴーさん（シンガポール労働省の役人）と知りあいになりまして、個人的な親交を深めておりました。そこでゴーさん訪問致しました。交歓会の申し入れをしたところ、技術指導をやっている青年の方々が早速、歓迎会をやってくれました。そして、シンガポールと日本の交流を積極的に行ないたいと申し入れがありまして、私も考えそれには同感致しました。

司会＝どうですかその他に鈴山君

鈴山敏和団員＝団長も今言われましたが、シンガポールでの公式日程は組まれていなかったのですが、急遽歓迎会を持ったことができまして、今後の交渉にとって、意義のあった訪問であったと思います。

◇

杉原美代太郎団員＝私の感じは、高官の方々にはお会いしませんでしたが、インド人、中国人、マレーシア人それぞれ三民族、三家庭にお世話になった訳で、その民族の生活様式、習慣に直接触れる事が出来たのは、大変良かったと思います。

それと、ペナンを観光するに当り、日本で云えば、県議会議長が三日間お案内してくれまして、感激致しました。

田中英健団員＝団長と一緒に中国人の家庭に泊ったのでありますが先ず私は、此の企画を立て下さった方に感謝致したいと思います。その家庭では、マーレシアは中国人の持っているという意識を徹底的に払拭に云う訳であります。ペナンは、特に中国人の力が強い所だったのでそういう感を持って帰った訳であります。それに杉原さん等は、食事に大変困ったようですが、その近くにある約六百人の学生さんがフォークダンスの会をやっており、仲間に入れてもらって種々と話をしたのですが、CYC関係ないグループでしたが、CYCの東南アジアの人達も勿論ですが、別のグループと話してみて特に感じました。

白名＝やはり、観光の途中ですが小学校の五、六年の子供達が教科書を一生懸命暗誦している姿をみて、教育に力を入れている国だなと思いました。それと、日本語が殆ど通用するのです。それに我々に親切ですし、民宿するなら台湾だと思いました。

杉原＝もう二つ反省点というか感じがしていますが、私達が向うへ行っている間に、日本の訪中使節団のニュースが入りまして、今後どういう風に、日中間が動いてゆくかということも大変興味をもっておりました。

白名＝私の感じとしては、皆さんも台湾に入る前は、自由時間が多かったので、打合せをして緊張して入国したのでありますが、パトカーを先導に市内パレードをして歓迎してくれたそうですが、市中には、そんな緊張感は見られず、のんびりした市にも驚いた訳です。市内の雰囲気、要所には、小銃を持った兵士が立っていましたが、市民の表情などからは、無表情であり